

木曾川森林計画区

第四次国有林野施業実施計画書

第三次変更計画

(変更分のみ)

【変更年月】	
第一次変更	平成26年3月
第二次変更	平成27年3月
第三次変更	平成28年3月

計画期間 自 平成25年 4月 1日
至 平成30年 3月31日

林野庁中部森林管理局

目 次

I 変更事由	1
II 変更事項	
3 林道の整備に関する事項	2
5 保護林の名称及び区域	3

木曾川森林計画区 第四次国有林野施業実施計画の第三次変更について

国有林野管理経営規程第14条第2項に基づき国有林野施業実施計画の一部を次のように変更する。
なお、この変更は、平成28年4月1日から効力を生ずるものとする。

I 変更事由

1 林道の整備に関する事項について

林内路網の整備を促進し森林整備の推進を図るため、林道の整備に関する事項を変更する。

2 保護林の名称及び区域について

「保護林制度の改正について」（平成27年9月28日付け27林国経第49号林野庁長官通知）により生物群集保護林を新設するとともに、既存の保護林の廃止及び新設する保護林への移行を行う。

3 林道の整備に関する事項

(単位：m)

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	箇所 (林班名)	延長	備考		
基幹	改良	恵那山	1007~1028	3箇所	80		
		〃	1072~1097	4箇所	100		
		阿木恵那	1032~1050	3箇所	40		
		恵那山中腹(上流)	1018	1箇所	20		
		阿木	1044	2箇所	40		
		白井沢合川(白井沢)	1055~1073	3箇所	40		
		白井沢合川(合川)	1091~1094	3箇所	50		
		阿岳谷鯉子	1061~1065	1箇所	20		
		夕森田立(丸野)	2003~2017	2箇所	40		
		白川付知	1~40	4箇所	70		
		瀬戸川高樽	70~71	5箇所	90		
		阿寺タツガヒゲ	114~118	4箇所	60		
		計			35箇所	650	
		その他	開設	牛首谷	1,4	1箇所	300
高時山(カシモ谷)	11~14			1箇所	1,600		
高時山支線(カシモ谷)	15,16			1箇所	1,147		
阿岳谷	1064			1箇所	1,085		
ホーキ谷	1080,1081			1箇所	1,000		
霧ヶ原	2224,2227			1箇所	1,100		
計				6箇所	6,232		
改良			城山	1109~1107	1箇所	20	
			水晶山	1100	2箇所	40	
			木の実支線	1110	1箇所	20	
			橋ヶ谷	1038~1039	1箇所	20	
			乙女谷	1049~1051	1箇所	20	
			黒井沢	1018	1箇所	20	
			阿岳鎗	1070~1078	4箇所	50	
			檜根(下流側)	1056	1箇所	40	
			川上	2021	1箇所	50	
			巢乗	2024~2027	1箇所	20	
巢乗支線	2027	1箇所	20				
賤母沢	698	1箇所	20				
高時山(カシモ谷)	14~18	1箇所	20				
オケゴヤ	52~56	2箇所	30				
出水谷	84	1箇所	20				
大滝(下)	61	1箇所	20				
臼ヶ久保	2227	1箇所	20				
栃の木洞	2206	1箇所	20				
計			23箇所	470			
合計	開設		6箇所	6,232			
	改良		58箇所	1,120			

(注) 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

5 保護林の名称及び区域

(1) 生物群集保護林

(単位：h a)

名称	新設 既設	面積	位置 (林小班)	特徴等	施業等
木曾	新設	1,383.38			
		木曾川：1,383.38 木曾谷：9,008.81 計 10,392.19			
		保存地区 木曾川：463.06 木曾谷：2,803.47 計 3,266.53	東濃 (463.06) 73ろ、74た、82いの一部、 83いの一部、86～93、 105は、106ほ、118ほ	世界的に希少といわれている天然のヒノキ、サワラ等を含む温帯性針葉樹林について、現存する温帯性針葉樹林をまとまりと連続性をもって、遺伝資源及び森林生態系を保存するとともに、人工林から天然林への誘導を通じて温帯性針葉樹林の復元をする。	保存地区については、原則として人為を加えずに自然の推移に委ねる。 保全利用地区は、天然林については保存地区と同様とし、人工林については育成複層林施業等を行うことができるものとして、将来的には天然林への移行を図る。 細部のについては、「木曾生物群集保護林復元計画」に基づき適切に行う。
		保全利用地区 木曾川：920.32 木曾谷：6,205.34 計 7,125.66	東濃 (920.32) 66～71、100～104、 105い・ろ・に～と・イ、 106い～に・へ～よ、 107～110、115～117、 118い～に・へ～り、 119～121		
面積計		1,383.38			

(2) 林木遺伝資源保存林

(単位：h a)

名称	新設 既設	面積	位置 (林小班)	特徴等	施業等
賤母ヒノキ等	既設	71.46	700い・ろ 701い	木曾ヒノキ、モミ、ツガ、コウヤマキ等の天然林である。	原則として、伐採は行わない。 ただし、保存対象樹種の安定的な存続を図るために必要な場合は、枯損木、被害木の除去を中心とした弱度の択伐を行う。
面積計		71.46			

(3) 植物群落保護林

(単位：h a)

名 称	新設 既設	面 積	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
恵那山シラベ	既設	492.21	1010林班 1015林班 1016は 1020林班 1021い・ろ	岐阜県における、 シラベの南限にあたる。	原則として、人手を加えず 自然の推移に委ねた保護管理を行う。
小里コウヤマキ	既設	18.73	1117ろ・に・ほ	コウヤマキの分布 下限近くに位置する 林分である。	
賤母ヒノキ 等	既設	20.68 (50.97)	698わ～た 699い～に・へ・ ち・イ 700は	温・暖帯の森林植 生の接点に当たる 箇所であり、急峻 な斜面に500種以上 の植物が生育し、 木曾谷の一般的な 森林と異なる特異 な植生を形成して いる。 注：()は隣接する 木曾谷森林計画区を 含む保護林全域の 面積である。	
面 積 計		531.62			

(4) 郷土の森

(単位：h a)

名 称	新設 既設	面 積	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
いわむら	既設	47.86	1102ほ・へ 1103ろ～る 1104林班 1105ろ	岩村城跡周辺に旧 藩時代のスギ、ヒノ キ、アカマツ等の林 分が残されている。	自然の推移に委ねた保護 管理又は現状の維持に必 要な森林施業を行うことを基 本とし、保護・管理・利用計 画書により行うものとする。
面 積 計		47.86			